

F—26 日本家政学会20年の研究と発展
—独立科学としての存在—

大妻女大家政 前川 当子

1. 日本の家政学会も20年の歩みを続けてきた。家政学研究者の数も著しく増加し、世間的にも家政学についての関心が高まりつつある。この際、家政学の独立科学としての存在を明らかにし、われわれが、家政学を学問の対象としての認識を深め、社会の要請についての使命の重要さを自覚するためのものとしたい。

2. 人類の歴史とともに古くから存在し、社会の基本的な単位である家族集団、ならびに家庭生活は同時に人間がよりよく生きるための合理性と価値観を含んだ生活共同体であることを前提として理論構成をする。

3. 1) 家政学雑誌の報文について。
2) 現時点における家政学の問題点。
3) 家政学は有機的に統合され、総合的観点にたつ適応科学である。